A Different Class Of Display

E シリーズ LCD モニタ

ユーザーマニュアル

www.agneovo.com

目次

使用前の注意事項

インストール

- LCD ディスプレイの後ろのラジエーター口を遮らないでください。
- スクリーンは熱源に近寄らないでください。例えば、電熱器や送風導管などです。又、日に直接当たらないでください。埃が多すぎると機械性の振動を生じます。

電源の連接

- 適当な電圧の電源線を使って下さい。
- LCD ディスプレイに近いコンセントを使って下さい。
- どんな物でも電源線の上に置かないで下さい。
- 下記の状況で電源線を抜いてください。
  - 長い間、LCD ディスプレイを使わないこと。
  - ケーブルが破損、磨り破れること。
  - LCD ディスプレイが転落、或いは外殻が損傷すること。
  - 機能が大幅に低下するなら、LCD ディスプレイの修理が必要です。

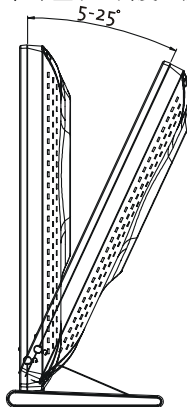
メンテナンス

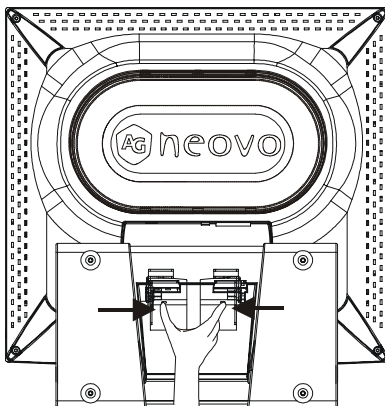
- 軟らかい布で少し温い洗剤をつけて外殻、ガラス、制御ボタンを拭きます。LCD ディスプレイに腐食性のある材料、溶剤、例えば、アルコールやベンゼン等を使わないこと。
- 鋭い或いは腐蝕性のある物で（例えば、鉛筆、ドライバー）、スクリーンの表面と摩擦、接触、或いはぶつかることをしないように。スクリーンを傷付けますから。
- LCD ディスプレイの後ろのラジエーター口に物を挿入、或いは液体を注入しないように。火事、感電、又は部品に故障を生じる恐れがありますから。

LCD ディスプレイ運搬

- メンテナンスを行う為に、LCD ディスプレイを運搬する時、元のダンボールや包装材料を使って、それを梱包してください。

LCD ディスプレイの傾斜機能

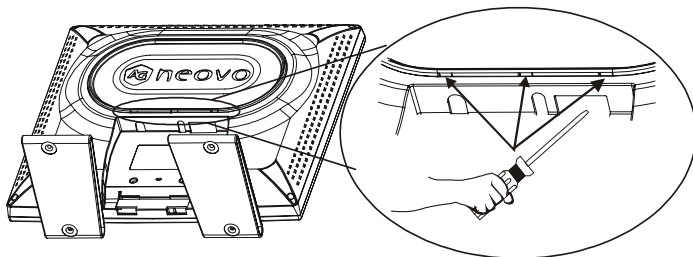
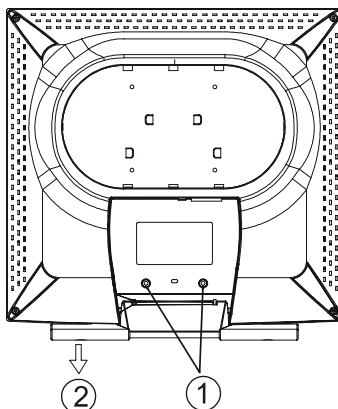
- この LCD ディスプレイは 5°～25°の範囲内で傾斜角度を調整できます。両手でスクリーンのトップをしっかりと掴まえて、希望する角度に傾けます。

台底面ロック

搬送のために台を 90 度上に曲げたい場合、下図で示すように、台底面の 2 本の金属製ピラーを押して 90 度折りたたみます。

モニタの最大角は 25°です。モニタがこの角度になっているとき、それ以上押し下げることはできません。

壁マウント

壁に LCD ディスプレイをマウントしたい場合、壁マウントキットまたはアームを使用し次に説明する手順に従ってください。

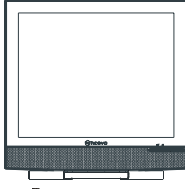
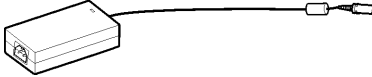
最初に、背面カバーを取り外します

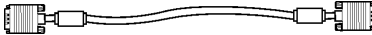
背面カバースロットにコインまたはマイナスドライバを挿入して、背面カバーを引き出します。

2 番目に、台アセンブリを取り外します

1. 2 本のネジを取り外します
2. 台アセンブリを取り去ります

3 番目に、後部側面にアームまたは壁マウントを取り付けます

LCD ディスプレイの梱包を開ける

インストールをし始める時、段ボール箱に次のような項目が含まれるのをご確認ください。

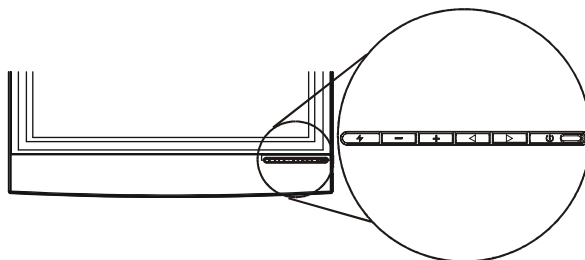
- LCD ディスプレイ

- アダプター
  E-17: 次のアダプタのどれかを使用する必要があります: **Linearity** LAD6019AB4, LAD6019AB5, または **Li Shin** LSE9901B1260, 0217B1250.
  E-19: 次のアダプタのどれかを使用する必要があります: **Linearity** LAD6019AB4, LAD6019AB5, または **Li Shin** LSE9901B1260, 0218B1255.

- 電源コード

- D-sub 15-pin VGA 信号線

- DVI-D デジタル信号線 ***(オプション)***

- オーディオ信号線

- CD-ROM （Windows 情報ファイルと取扱説明書が入っております）

- クイックガイド

制御ボタンの機能を説明

正面図

電源スイッチ

電源スイッチを入れたり切ったりします。

○ LED 指示ランプ。

スクリーンの電源がついている時、指示ランプが緑色になり、省エネ状態の時、指示ランプがオレンジ色になります。

自動調整ボタン

自動調整機能は LCD パネルを自動的に最適のパフォーマンスに変えます。

解像度か周波数が変えてから初めて使用する場合は、自動調整機能を使用するようにお勧めします。

自動ボタンは OSD も閉じます。

左へのボタン

スクリーン上の機能表（OSD）を表示させます。

右から左へ、下から上へと移動して、該当項目を選ぶことが出来ます。

右へのボタン

スクリーン上の機能表（OSD）を表示させます。

左から右へ、上から下へと移動して、該当項目を選ぶことが出来ます。

数値を増やすボタン

音量を上げてディスプレイをナビゲートします。

数値を減らすボタン

音量を上げるか消して、ディスプレイをナビゲートします。

インストール

LCD ディスプレイをコンピュータと接続（アナログ）—

1. スクリーンのすべての包装材を除去します。
2. LCD ディスプレイを適当な位置に置きます。スクリーンの周りに充分なスペースがあるかどうか確認してください。特に、後ろの区域です。
3. コンピュータを消して、VGA 信号線と接続します。付属しているスクリーン信号線を IBM／PC コンピュータとコンパティビリティ（互換性）のある 15 ピン VGA ポート（接続口）に繋げます。
4. スクリーン端にあるアダプターの電源プラグを LCD ディスプレイ後方にある電源口に繋げます。
5. 電源コードをアダプターに繋げます。そして、コンセントに電源プラグを差し込みます。
6. コンピュータの電源をつけます。
7. LCD ディスプレイのスイッチを入れたら、その画像が現れます。もし、現れなかったらユーザーマニュアルに書いてある「**警告信号と故障排除**」をご参照ください。
8. コンピュータの画素の数値は 1280X1024 ピクセルと 60Hz であることをご確認ください。AUTO ボタンを押したら、画像が自動的に最良化になります。

デジタル･インターフェースの接続（Digital, DVI）—

1. コンピュータのスイッチをオフにします。付属しているデジタル･インターフェースのスクリーン信号線の一端をスクリーン後方にある DVI デジタル接続口に繋げます。他の一端をコンピュータのデジタル表示カードの上に繋げて下さい
2. 他の手順は上記の第 4、5、6、7、8 項目と同じです。

LCD ディスプレイの調整

LCD ディスプレイの機能表示システム（OSD）は各種の自分で調整できるスクリーンのツールを提供します。

重要：	自分で選択項目を任意に調整することが出来ます。しかし、パネルの「**AUTO** セット」のご使用を強くお勧め致します。これで、**LCD** ディスプレイの機能が最良の状況に発揮できますから。**AUTO** ボタンを押したら **AUTO** セットが作動します。その他、毎回、コンピュータの画素の数値（ピクセル）や周波数を変えた後、その **AUTO** 機能を行うことをお勧め致します。

OSD グループの使い方

1. ◁、▷ ボタンを押して OSD ウィンドウを呼び出します。
2. ◁或いは▷ボタンを使って、サブ･コントロールの項目選択機能表の中で、セットしようとする項目を選んでください。
3. 選んだ後、∧或いは∨ボタンを使って、下記のリストに書いてある各セット項目のセット数値を変更します。

ﾌﾞﾗｲﾄﾈｽとｺﾝﾄﾗｽﾄ /

- スクリーンの輝度と対比を調整する時、機能表で関係項目を選択してください。
- ＋と－ボタンで 0～100 の間で、関係セット数値を調整してください。同時に、ウィンドーの底に調整された数値が現れることになります。

水平と垂直位置 /

- スクリーンの表示位置の微調整を行う場合、機能表で関係項目を選択してください。
- ＋と－ボタンで 0～100 の間で、関係セット数値を調整してください。同時に、ウィンドーの底に調整された数値が現れることになります。

鋭さ

- スクリーンの鋭さをセットするなら、機能表に在る Sharpness という項目を選択してください。
- ＋と－ボタンを使って、好きな鋭さの数値をセットしてください、0 から 100 の間で値を調整します。

OSD 透明感

- OSD ウィンドーの透明度を変更する場合、機能表に在る Transparency OSD（透明度 OSD）という項目を選択してください。
- ＋ と － ボタンを押して、オンとオフを切り換えます。

位相とクロック /

- コンピュータの信号の偏差を補う為に、画像機能の微調整を行う場合、機能表で関係項目を選択してください。
- ＋と－ボタンで関係セット数値を調整してください。

色温度

色温度を選択します。

下に示すように、異なる目的に対しては異なる色温度を選択するようにお勧めします。

オプション	使用
9300K	一般的使用
6500K	色管理
USER（ユーザー）	ユーザーカラーの設定
Auto Color（自動カラー）	最適の ADC ゲイン値に自動調整。

- ◁ または▷ ボタンを押して、9300K、6500K、ユーザーまたは自動カラーを選択します。
- 色温度メニューで USER（ユーザー）を選択すると、お好みに従ってまたは特定アプリケーションに従って、赤/緑/青画像設定を微調整できます。
- ＋または － ボタンを押して、0 から 100 の間で値を調整します。

水平および垂直 OSD 位置 /

- OSD ウィンドーを好きな位置に置く場合、機能表に在る OSD Position（OSD 位置）という項目を選択してください。
- ＋と－ボタンを使って、機能表を適当な位置に移します。

ｸﾞﾗﾌｨｯｸとﾃｷｽﾄ

- 文字や図形用途に対して、自動的に最適なスクリーンの明晰さを選択するなら、機能表に在る Mode Text/Graphic という項目を選択してください。
- [+]と[−]ボタンを使って、ウィンドーの底にある TEXT と GRAPHIC に切り換えて下さい。

注意!	ＬＣＤパネルが最適パフォーマンスを得られるように、解像度が **720x400** または **720x350** ピクセルの場合はテキストに、解像度が **640x350** または **640x400** ピクセルのときはグラフィックにモードを設定してください。

ﾘｺｰﾙ

- スクリーンにセットされたデータを出荷時の初期設定に戻すなら、機能表に在る Recall（標準に戻す）という項目を選択してください。
- [+]と[−]ボタンを使って、ウィンドーの底にある YES と NO に切り換えて下さい。

言語

- OSD に内蔵されている言語を選択する場合、機能表に在る Language（言語）という項目を選択してください。
- [+]と[−]ボタンを使って、ウィンドーの底に現れる「内蔵言語」に切り換えて下さい。

自動調整＆入力切換

- 自動入力設定(&I)を選択します。
- [−] ボタンを押すと自動調整、アナログ入力の使用、デジタル入力の使用を選択できます。
- [+] ボタンを押して、選択した機能を操作します。

自動調整機能により、画面サイズやクロック、位相を調整して、最適の表示設定を得ることができます。このプロセスは、完了するまで 3 ~ 5 秒かかります。 **注意：**自動調整の後、画面がスクリーン境界のないパターンを受け取ったら、不正な位置またはサイズを表示することがあります。VGA 入力または DVI 入力が利用できるときは、アナログまたはデジタル入力ビデオを選択してください。

終了

メニューから EXIT（終了）を選択すると、OSD メニューを終了します。

警告信号とトラブル シュッディング

警告信号

下記の信号がスクリーンに現れる場合	下記の項目を検査してください
NO SIGNAL INPUT (信号入力なし)	どんな入力接続口にでも入力信号を検出できない。 • コンピュータのスイッチや信号元は“オン”になるかを検査してください。 • 検査信号線は正確に接続するかを検査してください。 • 信号線の接続口にピンが曲がるか、或いは圧されるかをご確認ください。
NO VIDEO SIGNAL FROM ANALOG INPUT (ANALOG ANALOG ポートに何らの入力信号もない。)	ANALOG ポートに何らの入力信号も検出できない。 • コンピュータのスイッチは“オン”になるかを検査してください。 • D-Sub 15-pin 信号線はスクリーン後方にある ANALOG ポートに正確に接続するかを検査してください。 • D-Sub 15-pin 信号線は正確にコンピュータに接続するかを検査してください。 • D-Sub 15-pin のケーブルの接続口にピンが曲がるか、圧されるかをご確認ください。
NO VIDEO SIGNAL FROM DIGITAL INPUT (DIGITAL ポートに何ら入力信号もない)	DIGITAL ポートに何ら入力信号も検出できない • コンピュータのスイッチは“オン”になるかを検査してください。 • DVI 信号線はスクリーン後方にある DIGITAL ポートに正確に接続するかを検査してください。 • DVI 信号線は正確にコンピュータに接続するかを検査してください。 • DVI ケーブルの接続口にピンが曲がるか、圧されるかをご確認ください。

トラブル シュッディング

内容	検査項目
• 画像なし • LED 電源指示ランプがついていない。	• スクリーンのスイッチはオンになっているかを検査してください。 • 電源プラグは正確にスクリーンに差し込まれるかを検査してください。 • 電源コードは正確にコンセントに差し込まれるかを検査してください。 • 電源こーどは正確にコンセントに繋げるかを検査してください。 • コンセントには電流が付いているかを検査してください。他の装置でそれを検査してください。
• 無画像 • LED 電源指示ランプは橘色になる。	• コンピュータは省エネモードに入っていないかをご確認ください。マウスを移動して、或いはキーボードのキーを押したら、元の状態に戻れる • コンピュータ或いは画像元のスイッチはオンになっているかを検査してください。 • ビデオ信号のケーブルは正確に接続するかを検査してください。
• 表示されるテキストが明晰でない。	• ビデオ信号の画素の数値は 1280X1024 ピクセルであることをご確認ください。 • 自動調整を行う為に ボタンを押してください。 • OSD Display Adjust 機能表にある Clock と Phase に対する微調整を行って下さい。（詳細はこの取扱説明書の「スクリーンの調整」という節にご参照ください。） • 今の画素の数値は 1280X1024 ピクセルでない場合、OSD 機能表にある Sharpness（鋭さ）を調整してください。（詳細はこの取扱説明書の「スクリーンの調整」という節にご参照ください。）
• スクリーンの画像は真中に位置しない • ある線条が無くなった。	• 自動調整を行う為に ボタンを押してください。 • 微調整を行う為に H. Position（水平位置）と V. Position（垂直位置）を調整して下さい。（詳細はこの取扱説明書の「スクリーンの調整」という節にご参照ください。）
• スクリーンに紅、緑、藍或いは黒の小さいドットが現れる。	• TFT LCD ディスプレーに百万個以上の小型トランジスターが含まれている。一つのトランジスターが壊れたら、紅、緑、或いは藍色の小さいドットを一個失うことになります。液晶ディスプレーの製造過程の中で、多少明るすぎたドット或いは壊れたドットが生じることがある。液晶ディスプレーに明るすぎたドット或いは壊れたドットの数は 3 個以下の場合、まだ世界市場で許容される規格である。

製品規格

19''		
ディスプレー	スクリーン･サイズ	19.0" (480.0mm)対角
	最高画素	1280 x 1024
入力信号	周波数	水平：30kHz - 80kHz, 垂直：49Hz - 75Hz
	最大画素クロック	135MHz
ポート	電源	3 ピン AC プラグ
傾斜	傾斜角度	5º - 25º
重量	正味	7.3 Kg (16.1 lb)
電源	交流電	100 ~ 240V, 50~60Hz
	消耗率	< 50 ワット (オン), < 2 ワット (待ち) < 1 ワット (オフ)

17''		
ディスプレー	スクリーン･サイズ	17.0" (431.8mm)対角
	最高画素	1280 x 1024
入力信号	周波数	水平：30kHz - 80kHz, 垂直：49Hz - 75Hz
	最大画素クロック	135MHz
ポート	電源	3 ピン AC プラグ
傾斜	傾斜角度	5º - 25º
重量	正味	6.15 Kg (13.3 lb)
電源	交流電	100 ~ 240V, 50~60Hz
	消耗率	< 40 ワット (オン), < 2 ワット (待ち) < 1 ワット (オフ)

説明： 製品の規格は実際出荷時の規格を基準に設定します。以上の規格に変動がある場合、改めて通知することがありませんので、ご了承ください。

CANADA

FCC Class B の基準に合ったこのデジタル設備はカナダの「Interference-Causing Equipment Regulation」に書いてある全ての要求に合致する。

FCC 承諾声明

この設備は FCC 第十五節の規則に合致する。操作手順は以下二項目のルールを遵守しなければならない。(1)この設備は他の設備に故障が生じるまでの受信妨害をもたらしてはならない。(2)この設備は掛かって来る如何なる受信妨害を受けなければならない。操作に予期せぬ故障が生じるという受信妨害も含む。

使用者へのお知らせ：

この設備は B 級デジタル設備の規制に合致する為のテストに合格した。それに、FCC 第十五節の規則を遵守する。これらの規制はご自宅でその設備をインストールする時、機器に故障をもたらす受信妨害を生ずるのを防ぐ為に、作られるルールである。それによって、（使用者に）合理的な保障を提供することができる。この設備は稼動する時に無線電波の周波を発することができるので、もし指示に従わないで、自分勝手にインストールしたり、操作したりするなら、、無線通信に受信妨害をもたらす可能性は極めて大きいのである。もっとも、その設備は特殊なインストールの中で、受信妨害を生じないという保証が有るという訳ではない。もし、この設備は既にラジオやテレビに受信妨害をもたらした場合、下記の方法でその妨害を排除してください。（受信妨害が生じるかどうか、一旦設備のスイッチを切ってまた入れたら、判明できるのである。）

- 改めて受信アンテナの方向や位置を調整する。
- 設備と受信機との距離を広げる。
- 設備に繋がるプラグと受信機に繋がるプラグとは同じ所から出ないようにする。
- 販売業者或いはラジオとテレビの専門技術者に問い合わせて、援助を求めてください。

警告：	製造元工場の正式な許可を得ていないで、自分勝手にその設備を変更したり、改造したりすると、場合によっては、使用者がその設備を使用できない状態になる恐れがある。